

人権を学ぶ

黒田 浩継

LS1L

単位	講・2	回数	15
年次 学期	1年・春夏		
学修準備時間			60

学位授与の方針(ディプロマ・ポリシー)			
1.情熱・使命感・責任感	2.知識・技術	3.探究・主体性	◎ 4.人権・共感

授業内容

● 目的と概要

《目的》

- ・現代社会に存在する様々な人権問題の具体的な事例を当事者の視点から考察し、人権を尊重する考え方の重要性・必要性について理解を深める。
- ・人権問題を自らの生き方につなげ、人権を尊重する人間として他者との関わりの大切さについて考え、差別のない社会の実現に向けて行動できる実践力を身に付けることをねらいとする。

《概要》

「子どもの人権」を中心に、保育者に必要な最低限度の人権に関わる知識を学習する。学習に当たっては当事者の視点に基づいた教材を活用し、多様な考え方があることを体験できる参加体験型ワークショップ等を取り入れる。

● 到達目標

- ・人権に関わる様々な問題についての理解を深め、課題解決に向けた実践力を身に付ける。
- ・様々な人権問題を自分事としてとらえ、将来、保育者として子どもやその保護者と接する際に役立つ知識と力を身に付ける。

履修のルール

- ・本学の1回生を対象とした選択必修科目
- ・2回生、高野山大学の学生も希望すれば受講できる。

予習・復習の方法「自主学习ガイド」

授業中に適宜指示するが、予習については授業計画を参考に最初の授業で配布する「ゆまにてなにわ」を事前に読んでおく。

課題に対するフィードバックの方法

授業の最後に「授業振り返りシート」を完成させて提出する。提出されたシートは点数化し、次回の授業で返却する。

授業計画

1. ガイダンス「人権を学ぶ」で何を学ぶのか？
2. 「人権」ってなに？—誰もが幸せに生きていくために—
3. 子どもの人権Ⅰ「子どもの権利条約—子どもは権利の主体」
4. 子どもの人権Ⅱ「児童虐待と体罰」
5. ちがいを豊かさにⅠ「在日韓国朝鮮人の人権問題」
6. ちがいを豊かさにⅡ「コリアタウンフィールドワークⅠ」
7. ちがいを豊かさにⅢ「コリアタウンフィールドワークⅡ」
8. ちがいを豊かさにⅣ「多文化共生社会の実現に向けて」
9. 障がい者の人権と合理的配慮—ともに生きる社会とは
10. いじめとハラスメント（セクハラ、パワハラ）
11. SDGsと人権Ⅰ「子どもの貧困問題」
12. SDGsと人権Ⅱ「ジェンダーと男女平等教育」
13. SDGsと人権Ⅲ「性の多様性—性的マイノリティの人権」
14. 差別のない社会をめざしてⅠ「アサーティブな自己表現」
15. 差別のない社会をめざしてⅡ「子どもたちの人権尊重」

第6回、第7回についてはコリアタウンのフィールドワークを実施するので、現地までの交通費が必要。

評価基準・評価方法

	割合(100%)	基準・方法
試験	60	筆記試験を実施する(配布資料、ノート持ち込み可)。
レポート	0	
その他	40	受講態度、授業への参加・取り組み姿勢、「授業振り返りシート」の提出状況

教科書等

● 教科書等

講義内で配布する資料(「ゆまにてなにわ」、プリント)

● 参考書

授業中に適宜紹介する

アクティブラーニングへの取り組み

◎ PBL(課題解決型学習)	反転授業	ディスカッション、ディベート	◎ グループワーク
学生によるプレゼンテーション	◎ 実習、フィールドワーク	双方向アンケート	その他:

オフィスアワー

随時、アドミッションオフィスにて

実務経験

大阪府教育庁、大阪府教育センターにおいて人権教育を担当。現在、大阪府の人権に関わる委員会の委員(大阪府研究調査開発事業)を務める。この経験をもとに保育者に必要な人権に関する基本的内容について指導する。

キャリアデザイン I

阪田 啓代

LC1L

単位	講・2	回数	15
年次 学期	1年・夏秋冬*		
学修準備時間			60

学位授与の方針(ディプロマ・ポリシー)			
◎ 1.情熱・使命感・責任感	2.知識・技術	3.探究・主体性	4.人権・共感

授業内容

● 目的と概要

本講義では、職業に関する基本的な情報・知識を学び、職業選択に必要なスキルを身に付けることを目的とする。また、幼児教育をはじめ様々な分野で活躍する社会人・職業人の話や聞き取り、その内容についてのグループワーク等を通して、働くことの意味について考える。コロナ禍で仕事を取り巻く環境が大きく変わりつつあるなかで、自分の将来を描ける職業観を探究しよう。

● 到達目標

- ・現代社会に関心を持ち、職業や労働についての情報や知識を理解する。
- ・職業イメージを持ち、卒業後の進路について具体的に考えられる。
- ・社会人としての基礎的な素養を身に付ける。

履修のルール

予習・復習の方法「自主学习ガイド」

予習、復習については授業内で指示する。

課題に対するフィードバックの方法

課題(小テストやレポート等)については、授業のなかで解説、講評を行う。

授業計画

1. オリエンテーション／キャリアとは何か
2. 卒業後のキャリアをイメージするー幼稚園等ー
3. 卒業後のキャリアをイメージするー福祉施設ー
4. 卒業後のキャリアをイメージするー企業ー
5. ソーシャルスキルを身に付ける(挨拶・言葉遣い等)
6. 「働くこと」について考える
7. 働くことの基礎知識ー契約と労働条件ー
8. 働くことの基礎知識ー法人・求人先理解ー
9. 働くことの基礎知識ー様々な雇用形態ー
10. 非正規雇用の現状と課題
11. 採用試験の概略と模擬体験
12. 進路選択とキャリア理論
13. 自己分析・自己紹介書の作成①自己の棚卸し・自分の強みと弱み
14. 自己分析・自己紹介書の作成②キャリア・アンカー
15. まとめー進路・就職活動計画を考えるー

評価基準・評価方法

	割合(100%)	基準・方法
試験	50	筆記試験を行う。
レポート	0	
その他	50	授業への取り組み状況、授業内課題及び職業人への聞き取り課題などで総合的に評価する。

教科書等

● 教科書等

- ・プリント教材を配布
- ・進路就職ハンドブック

● 参考書

アクティブラーニングへの取り組み

PBL(課題解決型学習)	反転授業	ディスカッション、ディベート	◎グループワーク
学生によるプレゼンテーション	◎実習、フィールドワーク	双方向アンケート	その他:

オフィスアワー

月～金 実習・キャリアサポート室で随時

実務経験

2級キャリアコンサルタント技能士、国家資格キャリアコンサルタントとして、本学の進路指導を担当する部署で学生のキャリア支援を行っている。

幼児と健康

本山 司

MF1E

単位	演・1	回数	8
年次 学期	1年・春／夏		[幼必] [保必]
学修準備時間			30

学位授与の方針(ディプロマ・ポリシー)			
1.情熱・使命感・責任感	2.知識・技術	3.探究・主体性	4.人権・共感

授業内容

● 目的と概要

領域「健康」の指導について、幼児の健やかな心と体を育てるための基本的な生活習慣や安全な生活、運動発達などの側面から理解する。

● 到達目標

乳幼児期の運動発達の特徴を通して、身体の諸機能の発達と生活習慣について理解する。また、その健康課題を理解することにより、乳幼児の健やかな発達はどうかを考へる力を身につける。

履修のルール

予習・復習の方法「自主学习ガイド」

授業内で指示する章について、事前に予習をしておくこと。また、既習事項について復習をし、理解を深めておくこと。

課題に対するフィードバックの方法

課題等のフィードバックは、次時の授業冒頭で解説、説明する。筆記試験等は成績発表後に希望があれば開示、解説を適宜実施する。

授業計画

1. 領域「健康」からみる乳幼児期の生活環境
2. 健康とは—その定義と乳幼児の健康の意義—
3. 現代における乳幼児の身体的・生理的発達
4. 発達の特徴からみる乳幼児期の基本的な生活習慣
5. 乳幼児期の運動発達の特徴
6. 乳幼児期に起こりやすい怪我と病気
7. 年齢別、発達の特徴による乳幼児期の生活リズムの形成
8. 保育現場での乳幼児期の遊びと安全への意識
- 9.
- 10.
- 11.
- 12.
- 13.
- 14.
- 15.

評価基準・評価方法

	割合(100%)	基準・方法
試験	50	筆記試験(50%)
レポート	0	
その他	50	・学習のまとめの発表内容及び成果(50%)

教科書等

● 教科書等

・秋田喜代美、三宅茂夫監『シリーズ知のゆりかご 子どもの姿からはじめる領域・健康』みらい ¥2,530(税込)

● 参考書

アクティブラーニングへの取り組み

◎ PBL(課題解決型学習)	反転授業	ディスカッション、ディベート	◎ グループワーク
学生によるプレゼンテーション	実習、フィールドワーク	双方向アンケート	その他:

オフィスアワー

木曜日以外の昼休み(12:50～13:15)に研究室にて随時受け付ける。

実務経験

小学校教諭として17年間勤務し、保健体育や健康教育の指導経験がある。この経験をもとに教育、保育現場における健康の基本的な内容を指導する。

幼児と人間関係

茂野 仁美

MF1E

単位	演・1	回数	8
年次 学期	1年・秋		[幼必] [保必]
学修準備時間			30

学位授与の方針(ディプロマ・ポリシー)

- 1.情熱・使命感・責任感 ○ 2.知識・技術 3.探究・主体性 4.人権・共感

授業内容

● 目的と概要

現代社会における人間関係の育ちについて理解し、幼児教育における他者との関係の中で育つ、人と関わる力について理解する。

● 到達目標

領域「人間関係」の基盤となる乳幼児期の人間関係の発達について、保育環境を中心として理解する。また、現代社会における乳幼児を取り巻く人間関係についての課題を理解する。

履修のルール

予習・復習の方法「自主学习ガイド」

シラバスの内容に沿って、教科書を授業前に目を通しておくこと。
授業で配布された、各単元のまとめのプリントに沿って、授業内容をまとめるなどの復習をすること。

課題に対するフィードバックの方法

随時メールや Classroom を活用して行う。

授業計画

1. 乳幼児期の育ちと領域「人間関係」
2. 0, 1 歳児の人との関わりと保育
3. 2, 3 歳児の人との関わりと保育
4. 4, 5 歳児の人との関わりと保育
5. 特別な支援を必要とする子どもの人間関係を支える
6. 子どもの育ちを支える保護者と保育者の人間関係
7. 子どもの育ちに関わる地域の人々との人間関係
8. まとめ：人間関係を築くことの基本
- 9.
- 10.
- 11.
- 12.
- 13.
- 14.
- 15.

評価基準・評価方法

	割合 (100%)	基準・方法
試験	50	筆記試験 (50%)
レポート	0	
その他	50	授業内での課題やグループワーク (態度や積極性も含む) (50%)

教科書等

● 教科書等

田代和美・榎本真実『演習 保育内容 人間関係—基礎的事項の理解と指導法—』¥1,760 (税込)
平成 29 年告示『幼稚園教育要領・保育所保育指針・幼保連携型認定こども園教育・保育要領』チャイルド本社 ¥550 (税込)

● 参考書

アクティブラーニングへの取り組み

PBL(課題解決型学習)	反転授業	◎ ディスカッション、ディベート	◎ グループワーク
学生によるプレゼンテーション	実習、フィールドワーク	◎ 双方向アンケート	その他:

オフィスアワー

メールや Classroom を活用して随時

実務経験

幼稚園、保育所において、0 歳から 5 歳児の各クラスでの勤務経験と、保育カウンセラーとして保育現場での子ども理解に関する助言の業務をもとに、指導する。

幼児と環境

坂本 渉

MF1E

単位	演・1	回数	8
年次 学期	1年・夏		[幼必] [保必]
学修準備時間			30

授業内容

● 目的と概要

幼児期の保育は環境を通して行うものである。領域「環境」について、保育における子どもをとりまく環境とのかかわりについて実践的に学ぶ。保育における環境の意味や重要性について考えとともに、体験を通して環境への理解を深めることを目的とする。

● 到達目標

- 1) 子どもと環境とのかかわりについて理解する。
- 2) 幼稚園教育要領に示された幼児教育の基本や保育所保育指針に示された保育の基本を踏まえ、領域「環境」のねらいおよび内容を理解する。
- 3) 人的・物的環境、空間的環境の構成を具体的に考えることができる。

履修のルール

ペアワークやグループワーク等に積極的に参加すること。

予習・復習の方法「自主学习ガイド」

予習：次回までに予習すべき内容と準備物について授業内で指示する。

復習：教科書や配布プリント等の内容の整理、演習授業では実践の振り返りを行うこと。

課題に対するフィードバックの方法

授業内で解説する。また、実践の振り返りについては個別に添削を行う。

授業計画

1. 領域「環境」の意義・ねらい・内容
2. 子どもをとりまく人的環境—友だち・保育者—
3. 子どもをとりまく物的環境①保育室・園庭・遊具
4. 子どもをとりまく物的環境②身近な素材の特性に気づく
5. 子どもをとりまく物的環境③人工物と自然物
6. 子どもをとりまく自然環境—自然を感じとる力—
7. 子どもをとりまく社会的環境—地域社会とのかかわり—
8. 保育における環境の捉え方—環境構成の方法—
- 9.
- 10.
- 11.
- 12.
- 13.
- 14.
- 15.

評価基準・評価方法

	割合 (100%)	基準・方法
試験	70	筆記試験を行う。
レポート	0	
その他	30	授業内課題〔作品含む〕、課題発表、授業への参加状況

教科書等

● 教科書等

田宮 緑『体験する 調べる 考える 領域「環境」』第2版萌文書林 ¥2,200 (税込)
どろだんごキット ¥370 (税込)

● 参考書

アクティブラーニングへの取り組み

PBL(課題解決型学習)	反転授業	ディスカッション、ディベート	◎グループワーク
学生によるプレゼンテーション	◎実習、フィールドワーク	双方向アンケート	その他:

オフィスアワー

火・水・木・金の昼休み

実務経験

幼稚園教諭、主任教諭、また、保育所保育士として勤務。
この経験をもとに保育の基本を指導する。

幼児と言葉

坂本 渉

MF1E

単位	演・1	回数	8
年次 学期	1年・春		[幼必] [保必]
学修準備時間			30

学位授与の方針(ディプロマ・ポリシー)			
1.情熱・使命感・責任感	◎	2.知識・技術	3.探究・主体性
			4.人権・共感

授業内容

● 目的と概要

三法令(幼稚園教育要領・保育所保育指針・幼保連携型認定こども園教育・保育要領)に示された領域「言葉」のねらいおよび内容について背景となる専門領域と関連させて理解を深める。また、言葉の育つ道筋と保育者のかかわりや役割について知る。

● 到達目標

- 1) 保育の基本等を踏まえ領域「言葉」のねらいおよび内容を理解する。
- 2) 乳幼児が言葉を獲得していく発達過程を理解する。
- 3) 言葉によって育まれる力を理解し、それらを育むための保育者の指導や支援のあり方について検討することができる。

履修のルール

予習・復習の方法「自主学習ガイド」

予習：授業計画に記載されている内容に添って事前に教科書を読んでおくこと。

復習：教科書や配布資料を再読し、授業内容を整理しておくこと。演習授業では振り返りを行うこと。

課題に対するフィードバックの方法

授業内で解説する。また、実践の振り返りについては個別に添削を行う。

授業計画

1. 言葉のもつ機能について
2. 領域「言葉」の意義・ねらい・内容
3. 言葉の育つ道筋と保育者のかかわり①言葉の前の言葉(0歳児)
4. 言葉の育つ道筋と保育者のかかわり②言葉を話せるようになってから(1・2歳児)
5. 言葉の育つ道筋と保育者のかかわり③3・4歳児の言葉
6. 言葉の育つ道筋と保育者のかかわり④5歳児・1年生の言葉
7. 言葉と児童文化財
8. 模擬保育：児童文化財を活用した保育
- 9.
- 10.
- 11.
- 12.
- 13.
- 14.
- 15.

評価基準・評価方法

	割合(100%)	基準・方法
試験	70	筆記試験を行う。
レポート	0	
その他	30	授業への参加状況(ペアワーク、グループワーク)、ミニレポート、受講態度による評価

教科書等

● 教科書等

近藤幹夫ほか『実践につなぐことばと保育』ひとなる書房 ¥2,200(税込)

● 参考書

授業中に適宜紹介する。

アクティブラーニングへの取り組み

PBL(課題解決型学習)	反転授業	ディスカッション、ディベート	◎ グループワーク
学生によるプレゼンテーション	◎ 実習、フィールドワーク	双方向アンケート	その他:

オフィスアワー

火・水・木・金の昼休み

実務経験

幼稚園教諭、主任教諭、また、保育所保育士として勤務。この経験をもとに保育の基本を指導する。

幼児と表現

大浦 知加

MF1E

単位	演・1	回数	8
年次 学期	1年・冬		[幼必] [保必]
学修準備時間			30

学位授与の方針(ディプロマ・ポリシー)

- 1.情熱・使命感・責任感 ○ 2.知識・技術 3.探究・主体性 4.人権・共感

授業内容

● 目的と概要

- ・三法令(幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領)の領域「表現」のねらい及び内容の取扱いについて理解する。
- ・幼児の表現の特徴を理解し、その発達をサポートする環境構成や技術を実践的に学ぶ。
- ・さまざまな保育教材を通じた表現あそびを体験し、その表現方法を理解する。

● 到達目標

- ・領域「表現」の指導に関する、幼児が表現活動を行うための支援の在り方を理解し、知識・技術・表現力を身につける。
- ・幼児の表現の過程と特徴を理解して、領域「表現」を捉え、その指導を展開できる。
- ・保育教材を通じた、幼児が表現活動を行うための支援の方法を理解し、知識・技術・表現力を身につける。

履修のルール

- ・動きを伴うため、動きやすい服装と靴。
- ・配布する楽譜類はスケッチブックに貼り保存。
- ・スケッチブック・フェイスタオル持参。
- ・創作時は「ホチキス、カッター、のり、マジック、色鉛筆」等を持ってくる。

予習・復習の方法「自主学习ガイド」

- ・三法令の領域「表現」の内容を読んでおく。
- ・授業内容を振り返り、理解を深める。
- ・学習した内容の中で興味・関心を持った点を自主的に深める。

課題に対するフィードバックの方法

その場で、課題に応じた指導を返したり、補足説明をする。また、随時メールや Classroom を活用して行う。

授業計画

1. 幼児の表現における発達理解(身近なモノと関わり捉えた知覚を、オノマトペや色や形で表現する)
2. 幼児の表現する過程を体験し、感覚特性を理解する(リトミック、身ぶり表現)
3. コミュニケーション的要素を取り入れた表現(言葉、音による表現)
4. 総合的表現発表の骨組みを考える
(こどもたちに伝えるための表現方法について、グループ内でディスカッションを行い最良の方法を目指す)(グループワーク)
5. コミュニケーションとしての表現(発表を支える児童文化財の特性を知り、創作する)(グループワーク)
6. コミュニケーションとしての表現(発表を支える音や身ぶり表現を模索する)(グループワーク)
7. コミュニケーションとしての表現(総合的に創作していく)(グループワーク)
8. コミュニケーションとしての表現する方法をかたちにする(グループワーク)
- 9.
- 10.
- 11.
- 12.
- 13.
- 14.
- 15.

評価基準・評価方法

	割合(100%)	基準・方法
試験	50	実技試験(グループによるオペレッタ発表)
レポート	0	
その他	50	・オペレッタ創作への取り組み状況 ・授業内ミニレポート、振り返りレポート ・オペレッタ発表への取り組み状況(意欲・片付け含む) 上記を総合的に評価する。

教科書等

● 教科書等

- 編著:伊藤伸明『3つのコードで楽しく弾ける』ドレミ楽譜出版 ¥1,980(税込)
編著:木村鈴代『新たなしい子どものうたあそび—現場で活かせる保育実戦—第2版』同文書院 ¥2,420(税込)
スケッチブック ¥300(税込)
※すべて、他の音楽・表現授業と共有、2年間継続して使用します。

● 参考書

- ・平成29年度 幼稚園教育要領(最新版)、保育所保育指針(最新版)、幼保連携型認定こども園教育・保育要領(最新版)
- ・保育のうた155(ひかりのくに)
- ・幼児の四季とみんなの歌(全音楽譜出版社)

アクティブラーニングへの取り組み

◎ PBL(課題解決型学習)	◎ 反転授業	◎ ディスカッション、ディベート	◎ グループワーク
◎ 学生によるプレゼンテーション	◎ 実習、フィールドワーク	◎ 双方向アンケート	◎ その他:チームで話し合い必要なものを学生が用意・集計する

オフィスアワー

お昼休み等(研究室)

実務経験

こども園・保育園へのリトミック、生活発表会指導者として勤務。音楽教室・幼児教室では合奏やオペレッタの舞台発表指導。長年、和楽器・管弦打楽器こどもオーケストラ、舞台発表等のイベントを主催、指導。自身も舞台表現家である。

表現技術(ピアノ I)

大浦 知加 ほか

MF1E

単位	演・1	回数	15
年次 学期	1年・春夏		[幼必] [保必]
学修準備時間			15

学位授与の方針(ディプロマ・ポリシー)

- 1.情熱・使命感・責任感 ○ 2.知識・技術 3.探究・主体性 4.人権・共感

授業内容

● 目的と概要

- ・ 幼児の表現方法を豊かにするための、様々な音楽表現あそびや歌唱、それに必要な音楽理論などを総合的に学ぶ。
- ・ ピアノ弾き歌いの基本的な演奏法を学び、その技術を向上させることにより、保育で活用できる力を身につける。

● 到達目標

- 幼稚園教育要領の領域「表現」のねらい及び内容の取り扱いについて理解し、
- ・ 保育に必要なピアノの演奏力を身につける。
 - ・ 保育現場で使われる幼児曲等を知り、歌える。
 - ・ 保育現場で行われる乳幼児の手あそびや音楽あそびを数曲、できる。

履修のルール

- ・ イヤホンは必ず持参すること。
- ・ 表現技術(ピアノ I)の単位修得済みであること。
- ・ ピアノ演奏を行うため、必ず爪は短くし、マニキュア等不要なものは取っておくこと。
- ・ スケッチブックに楽譜を貼るノリを持参すること。

予習・復習の方法「自主学习ガイド」

- ・ 授業時に学んだ予習方法を元に、毎日、ピアノに触れて練習する。
- ・ 季節の歌唱やピアノ以外の表現方法にも日常の中で意識し、保育者としての表現力を磨く。

課題に対するフィードバックの方法

授業内にフィードバックする。また、随時メールや Classroom を活用して行う。

授業計画

1. 領域「表現」のねらいからみるピアノと表現の重要性/ピアノ弾き歌い奏法
2. 保育現場での弾き歌い基本法、コード奏法(C:)
3. 保育現場での楽典・音符/ピアノ弾き歌い奏法
4. 保育現場での手あそびと音楽あそび—ことば・音・からだによる表現—
5. こどもの歌の歌唱(春)/ピアノ弾き歌い奏法
6. 春の歌を活用した保育現場での音楽あそび—こどもの発達と歌いかけ①—
7. 春の歌を活用した保育現場での手あそび—さまざまな感性を育む手あそびの意義①—
8. 新しい弾き歌いコード奏法(G:)
9. こどもの歌の歌唱(梅雨)/ピアノ弾き歌い奏法
10. 梅雨の歌を活用した保育現場での音楽あそび—こどもの発達と歌いかけ②—
11. 梅雨の歌を活用した保育現場での手あそび—さまざまな感性を育む手あそびの意義②—
12. 新しい弾き歌いコード奏法(F:)
13. こどもの歌の歌唱(夏)/ピアノ弾き歌い奏法
14. 夏の歌を活用した保育現場での音楽あそび—こどもの発達と歌いかけ③—
15. 夏の歌を活用した保育現場での手あそび—さまざまな感性を育む手あそびの意義③—

評価基準・評価方法

	割合(100%)	基準・方法
試験	50	実技試験(日常授業の取り組み状況も含んだ演奏試験)(基本5曲を終了しておくこと)
レポート	0	
その他	50	授業内実技ミニテスト(歌唱、手あそび)の評価及び、課題(楽典、レポート)の取り組み状況等

教科書等

● 教科書等

編著:伊藤伸明『3つのコードで楽しく弾ける』ドレミ楽譜出版 ¥1,980(税込)
 編著:木村鈴代『新たなの子どものうたあそび—現場で活かせる保育実戦—第2版』
 同文書院 ¥2,420(税込)
 スケッチブック ¥300(税込)
 ※すべて、他の音楽・表現授業と共有、2年間継続して使用します。

● 参考書

- ・ 平成29年度 幼稚園教育要領(最新版)、保育所保育指針(最新版)、幼保連携型認定こども園教育・保育要領(最新版)
- ・ 保育のうた155(ひかりのくに)
- ・ 幼児の四季とみんなの歌(全音楽譜出版社)

アクティブラーニングへの取り組み

PBL(課題解決型学習)	◎反転授業	ディスカッション、ディベート	◎グループワーク
学生によるプレゼンテーション	◎実習、フィールドワーク	双方向アンケート	その他:

オフィスアワー

お昼休み等(研究室)

実務経験

保育園・こども園・小学校・中学校・高校、専門学校音楽講師勤務の経験と、現場保育者や教員への音楽授業指導経験を生かした指導法を展開する。また長年、ヤマハ音楽教室等で3歳~大人までのピアノ演奏指導や、和楽器や管弦打楽器、様々な楽器による合奏やリトミック、音楽遊び等を行ってきた。自身も和太鼓やピアノによる舞台表現家である。

表現技術(ピアノⅡ)

寄 ゆかり ほか

MF2E

単位	演・1	回数	15
年次 学期	1年・秋冬		[幼必] [保選]
学修準備時間			15

学位授与の方針(ディプロマ・ポリシー)

1.情熱・使命感・責任感 ◎ 2.知識・技術 3.探究・主体性 4.人権・共感

授業内容

● 目的と概要

幼児の様々な表現方法を豊かにするための表現遊びや歌唱、弾き歌いのための伴奏方法、またそれに必要な音楽理論などを総合的に学ぶ。

また、ピアノの基本的な演奏法を学び、その技術を向上させることにより、保育で活用できる演奏(主に幼児教育現場での「弾き歌い」ができる)力を身につける。

● 到達目標

幼稚園教育要領の領域「表現」のねらい及び内容の取扱いについて理解し、

- ・保育に必要なピアノの演奏力を身につける。
- ・保育現場で使われる幼児曲等を知り、歌える。
- ・保育現場で行われる乳幼児の手遊びができる。

履修のルール

- ・イヤホンは必ず持参すること。
- ・表現技術(ピアノⅠ)の単位修得済みであること。
- ・ピアノ演奏を行うため、必ず爪は短くし、マニキュア等不要なものは取っておくこと。

予習・復習の方法「自主学习ガイド」

ピアノは日々の練習の積み重ねが大変、重要です。授業時に学んだ予習方法を元に、必ず毎日、ピアノに触れて練習するようにしてください。

課題に対するフィードバックの方法

実技ミニチェックでは、その場で各自に応じた指導を返している。また、楽典、レポートなどはClassroom等で各自の課題をコメントし、指導に活かしている。

授業計画

1. 領域「表現」のねらいからみるピアノの弾き歌い、コード練習
2. 保育現場での音楽遊び/保育に用いるコード練習
3. 保育現場での手遊び、身体遊び/保育に用いるコード練習
4. 季節の曲の歌唱(秋)とコード奏、弾き歌い
5. コードを使って歌の楽しさを味わう/簡単な伴奏で流れを止めない練習
6. 秋の歌唱曲を子どもたちと歌う/伴奏の違いによる曲のイメージ
7. 保育で使用するコード復習
8. コードを用いた弾き歌いと様々な伴奏形
9. 季節の曲の歌唱(冬)とコード奏/伴奏の違いによる曲のイメージ
10. 冬の歌唱曲を子どもたちと歌う
11. 実習で弾き歌いするために必要な力
12. 秋冬の歌唱曲を弾き歌いする。テンポ、曲想をつかみながら。
13. カデンツを用いたコード奏と伴奏形の復習
14. 四季を通じた弾き歌いのレパートリーを増やす
15. 子どもと歌を楽しむために演奏の必要な力

評価基準・評価方法

	割合(100%)	基準・方法
試験	50	実技試験(日常の授業での取り組み状況も含んだ演奏試験)
レポート	0	
その他	50	授業内実技ミニテスト(歌唱、手遊び)の評価及び、課題(楽典、レポート)の取り組み状況等

教科書等

● 教科書等

編著:伊藤伸明『3つのコードで楽しく弾ける』ドレミ楽譜出版¥1,980(税込)
編著:木村鈴代『たのしい子どものうたあそび』同文書院¥2,200+税
※すべて表現技術(ピアノⅡ)の教科書を継続して使用します。

● 参考書

平成29年度 幼稚園教育要領(最新版)、保育所保育指針(最新版)、幼保連携型認定こども園教育・保育要領(最新版)

アクティブラーニングへの取り組み

PBL(課題解決型学習)	◎反転授業	ディスカッション、ディベート	グループワーク
学生によるプレゼンテーション	◎実習、フィールドワーク	双方向アンケート	その他:

オフィスアワー

お昼休み等(研究室)

実務経験

音楽教室においては、3歳児からピアノ、エレクトーンまでの鍵盤指導及び管楽器、打楽器指導を中心としたアンサンブル教育も行う。また現役保育者に対する保育内容に関する実技講習などの研修を多く行っている。

表現技術(造形 I)

東 景子

MF1E

単位	演・1	回数	15
年次 学期	1年・春夏		[幼必] [保必]
学修準備時間			15

学位授与の方針(ディプロマ・ポリシー)			
1.情熱・使命感・責任感	◎	2.知識・技術	3.探究・主体性
			4.人権・共感

授業内容

● 目的と概要

この授業では、高校で美術を受講していた有無に関わらず、皆さんが保育者になるまでに身につけてほしい造形的な発想や構想力、技能や表現力を想定して実施する。具体的には、素材を活かす作品作りや、直接描く絵画とは違う、版画表現を取り入れた間接的な表現の習得、季節や行事に合った作品作りを取り入れて楽しむ。

● 到達目標

1. 課題作品の演習を通して、素材や技法に対する理解を深め、表現や工夫する力を習得する事を目的とする。
2. 保育者になる学生自身が造形表現を楽しみ、保育現場でも活用出来る様に意識して取り組む事が出来る。

履修のルール

特に絵の具画材を使用する回では、多少汚れても構わない服装かエプロン等を持参の上受講する事。

予習・復習の方法「自主学习ガイド」

必要な道具と素材は告知するので、必ず事前に準備し持参する事。
各課題について確実に仕上げ、鑑賞会の際には、作品制作意図も説明できる様にする事。

課題に対するフィードバックの方法

作品鑑賞会の際にコメントをする、もしくは、課題とプリント返却時にメッセージを添える等の方法で行う。

授業計画

1. オリエンテーション、造形表現の意義 持ち物・準備物の確認
2. 大きなシートで遊ぼう！—身体で風を感じて—
3. 子どものなりたい職業の制服作り～素材を活かす～①職業選び
4. 子どものなりたい職業の制服作り～素材を活かす～②制作
5. 子どものなりたい職業の制服作り～素材を活かす～③完成撮影会
6. 触覚を楽しむ！①紙粘土遊び
7. 表現技法の紹介①スクラッチ ②はじき絵
8. 表現技法の紹介③ドリッピング
9. 表現技法を取り入れた作品制作～完成
10. 触覚を楽しむ！②—粘土でロール版画遊び—
11. 版遊びの紹介①—スタンプと手型遊び①—絵本の紹介
12. 版遊びの紹介②—スタンプと手型遊び②—
13. 版遊びの紹介③—ステンシルとローラー
14. 版遊びを取り入れた作品の完成
15. 作品鑑賞会

第1回目の授業には『教科書』『購入画材一式』『油性ネームペン』を持参する事。

評価基準・評価方法

	割合(100%)	基準・方法
試験	0	
レポート	0	
その他	100	準備物、制作課題提出、作品制作意図のまとめプリントで評価する。

教科書等

● 教科書等

槇英子『保育をひらく造形表現』萌文書林 ¥2,300 + 税
必要に応じてプリント資料を配布する。
購入の画材一式

● 参考書

アクティブラーニングへの取り組み

◎ PBL(課題解決型学習)	反転授業	ディスカッション、ディベート	◎ グループワーク
◎ 学生によるプレゼンテーション	◎ 実習、フィールドワーク	双方向アンケート	その他:

オフィスアワー

月・火・水・金の昼休み、図工室か研究室

実務経験

小中学校の図画工作・美術と併設の特別支援学級の美術(非常勤講師・常勤講師) 社会人向け生涯学習(カルチャーセンター) 木版画教室講師

表現技術(造形Ⅱ)

東 景子

MF2E

単位	演・1	回数	15
年次 学期	1年・秋冬		[幼必] [保選]
学修準備時間			15

学位授与の方針(ディプロマ・ポリシー)

1.情熱・使命感・責任感 2.知識・技術 3.探究・主体性 4.人権・共感

授業内容

● 目的と概要

前期の表現技術(造形Ⅰ)に続き、皆さんが保育者になるまでに身につけてほしい造形的な発想や構想力、技能や表現力を想定して実施する。具体的には、素材を活かす作品作りや、季節や行事に合った作品作りを取り入れて楽しむ。

● 到達目標

1. 課題作品の演習を通して、素材や技法に対する理解を深め、表現や工夫する力を習得する事を目的とする。
2. 保育者になる学生自身が造形表現を楽しみ、保育現場でも活用出来る様に意識して取り組む事が出来る。

履修のルール

特に絵の具画材を使用する回では、多少汚れても構わない服装かエプロン等を持参の上受講する事。

予習・復習の方法「自主学习ガイド」

必要な道具と素材は告知するので、必ず事前に準備し持参する事。各課題について確実に仕上げ、鑑賞会の際には、作品制作意図も説明出来る様にする事。

課題に対するフィードバックの方法

作品鑑賞会の際にコメントをする、もしくは、課題とプリント返却時にメッセージを添える等の方法で行う。

授業計画

1. 地元のお祭りの制作①
2. 地元のお祭りの個人制作～共同制作②
3. 地元のお祭りの共同制作③完成一壁面展示
4. 表現技法の紹介④フロッタージュ
5. 表現技法の紹介⑤スパッタリング
6. 表現技法の紹介④⑤でコラージュ作品の完成
7. 落ち葉アート
8. 季節の造形①制作 1
9. 季節の造形①制作 2
10. 季節の造形②制作 1
11. 季節の造形②制作 2
12. 身近な素材の玩具作り①ペットボトルで
13. 身近な素材の玩具作り②ビニール袋で
14. 簡単なお面制作
15. 作品鑑賞会

評価基準・評価方法

	割合(100%)	基準・方法
試験	0	
レポート	0	
その他	100	準備物、制作課題提出、作品制作意図のまとめプリントで評価する。

教科書等

● 教科書等

槇英子『保育をひらく造形表現』萌文書林 ¥2,300 + 税
編著 花篤實・岡田愨吾『新造形表現 実技編』三晃書房 ¥2,000 + 税
必要に応じてプリント資料を配布する。
購入の画材一式

● 参考書

アクティブラーニングへの取り組み

◎ PBL(課題解決型学習)	反転授業	ディスカッション、ディベート	◎ グループワーク
◎ 学生によるプレゼンテーション	◎ 実習、フィールドワーク	双方向アンケート	その他:

オフィスアワー

月火水金の昼休み、図工室か研究室

実務経験

小中学校の図画工作・美術と併設の特別支援学級の美術(非常勤講師・常勤講師)、社会人向けの生涯学習(木版画教室)講師

教職・保育者論

板倉 史郎

MB1L

単位	講・2	回数	15
年次 学期	1年・春×2		[幼必] [保必]
学修準備時間			60

学位授与の方針(ディプロマ・ポリシー)

○ 1.情熱・使命感・責任感	◎ 2.知識・技術	3.探究・主体性	4.人権・共感
----------------	-----------	----------	---------

授業内容

● 目的と概要

学校教育・保育の目的と教員・保育士養成の変遷について概説し、現代社会における教職・保育職について、その意義、役割、資質、職務について学習する。

● 到達目標

教員、保育者の職務について理解する。

履修のルール

予習・復習の方法「自主学习ガイド」

- ・配布する資料等を整理し、活用する。
- ・授業時に予習、復習について説明する。

課題に対するフィードバックの方法

講義で課すミニレポートに関しては、次回の講義で講評を行い、返却する。

授業計画

1. オリエンテーション、授業概要、諸注意
2. 教育とは何かー「教育」と「教師」
3. 教職とは何か①ー教師にはどのような資質、能力が求められるか
4. 教職とは何か②ー教師・教職の歴史、養成・採用・研修
5. 法令から見た教員ー教員の種類、身分、服務
6. 幼保連携(一元化)ー保育士と幼稚園教員、保育教諭
7. 教員・保育者の専門性①ー子ども理解
8. 教員・保育者の専門性②ー緊急時の対応
9. 教員・保育者の専門性③ー保・幼・小の連携と協働
10. 幼稚園教諭と保育士の職務の相違点、共通点
11. 教員以外の専門職スタッフとの連携・協働ーチーム学校
12. 地域社会、保護者との連携・協働
13. 学校・教員をとりまく現状と課題①ー教員評価、法定研修、体罰
14. 学校・教員をとりまく現状と課題②ーいじめ問題、カウンセリングマインド
15. 教職・保育職の意義及び教員・保育士の職務のまとめ

評価基準・評価方法

	割合(100%)	基準・方法
試験	0	
レポート	0	
その他	100	授業への参加状況(40%)、各講義で課すミニレポート(40%)、最終レポート(20%)により総合的に評価する。

教科書等

● 教科書等

- ・寄ゆかり、伊藤一雄編著『新しい保育基礎』サンライズ出版
- ・¥2,200(税込)

● 参考書

アクティブラーニングへの取り組み

PBL(課題解決型学習)	反転授業	◎ ディスカッション、ディベート	◎ グループワーク
学生によるプレゼンテーション	実習、フィールドワーク	◎ 双方向アンケート	その他:

オフィスアワー

特に設けないが、必要に応じて研究室を訪ねること。

実務経験

- ・小学校現場にお家、長年にわたり教育活動を行ってきた。
- ・小学校現場において、実習生の指導を担当してきた。

教育心理学

茂野 仁美

MB1L

単位	講・2	回数	15
年次 学期	1年・夏×2		[幼必] [保必]
学修準備時間			60

学位授与の方針(ディプロマ・ポリシー)

1. 情熱・使命感・責任感 ○ 2. 知識・技術 3. 探究・主体性 4. 人権・共感

授業内容

● 目的と概要

主に乳幼児期の発達に応じた学びや遊びなどの体験の在り方について学習する。また、人の発達に見通しを持ち、保育・教育を行っていくためには生涯にわたる人の発達や学習方略への理解も必要である。これらについての概要をとらえ、実践の土台となる理論を身につけることを目指す。

● 到達目標

乳幼児期の人の発達の諸理論について、理解する。
人の生涯にわたる発達を見通し、援助・支援のための理論について理解する。
乳幼児期にひつような学びと遊びの関係について、理解する。

履修のルール

予習・復習の方法「自主学習ガイド」

教科書の授業に関する箇所を、授業前に必ず目を通しておくこと。授業後は、ノートやプリントと、教科書の内容を照らし合わせて理解を深めるように努める。

課題に対するフィードバックの方法

随時メールや Classroom を活用して行う。

授業計画

1. 子どもの発達を理解することの意義
2. 子どもの発達と環境
3. 子ども観・保育観と発達理論からの視点
4. 社会情動的発達
5. 身体機能と運動機能の発達
6. 認知の発達
7. 言語の発達
8. 0,1,2 歳の発達
9. 3,4,5 歳の発達
10. 学童期から青年期までの発達
11. 成人期から老年期までの発達
12. 乳幼児期の学びに関する理論
13. 乳幼児期の学び〈遊び〉の過程
14. 乳幼児期の遊びを支える保育実践
15. まとめ～人の発達と保育の関係～

評価基準・評価方法

	割合 (100%)	基準・方法
試験	60	筆記試験 60% 教育心理学で学んだ基礎的な理論について問う。
レポート	0	
その他	40	授業中の課題への取り組み 40% 毎回学習したことについて、理解できたことや疑問、自分なりの考察をミニレポートにまとめ、当日中に提出する。(積極性や態度も含む)

教科書等

● 教科書等

大浦賢治『実践につながる新しい保育の心理学』ミネルヴァ書房
¥2,420 (税込)

● 参考書

アクティブラーニングへの取り組み

PBL(課題解決型学習)	反転授業	◎ ディスカッション、ディベート	グループワーク
学生によるプレゼンテーション	実習、フィールドワーク	◎ 双方向アンケート	その他:

オフィスアワー

メールや Classroom を活用して随時

実務経験

幼稚園、保育所において、0歳から5歳児の各クラスでの勤務経験と、保育カウンセラーとして保育現場での子ども理解に関する助言の業務をもとに、指導する。

特別支援教育

宮本 直美

MB1E

単位	演・1	回数	8
年次 学期	1年・秋		[幼必] [保必]
学修準備時間			30

学位授与の方針(ディプロマ・ポリシー)			
1.情熱・使命感・責任感	◎	2.知識・技術	3.探究・主体性
			4.人権・共感

授業内容

● 目的と概要

現代の特別支援教育に至る今日までの歴史の変遷、基本理念、制度、教育内容や保育内容について理解する。現代社会における特別なニーズを持つ子どもたちの実態について理解した上で、保育者として特別支援教育に関するシステム、指導法の基本的な理解をする。

● 到達目標

特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒の特性や心身の発達、及び学習上又は生活上の困難さについて理解する。特別の支援を必要とする幼児、児童、生徒の教育課程や支援の方法、及び組織的な対応の必要性について理解する。

履修のルール

最初の授業時に指示する。

予習・復習の方法「自主学习ガイド」

次回の講義までに、講義内容に対応する教科書の章を読み予習しておくこと。復習しておくべき課題については授業中に指示する。全30時間。

課題に対するフィードバックの方法

後続の授業にて返却し、解説を行う。また、C classroomにて試験内容や回答について提示するので、各自確認し復習しておくこと。

授業計画

1. 特別支援教育の理念と基本的な考え
2. 特別なニーズを持つ子の理解①身体障がい・病弱・医ケア・重身等
3. 特別なニーズを持つ子どもの理解②知的障がい・発達障がい等
4. 特別な配慮を要する子どもの理解と支援
5. 個別の教育支援計画と個別の指導計画
6. 特別支援学校と支援学級、通級による指導における教育と自立活動
7. 幼稚園等・小学校・中学校における特別支援教育と仕組み～園内の支援体制について～
8. 障がい児支援の制度理解と地域における自治体や専門機関との連携
- 9.
- 10.
- 11.
- 12.
- 13.
- 14.
- 15.

評価基準・評価方法

	割合(100%)	基準・方法
試験	40	筆記試験
レポート	0	
その他	60	授業への参加状況、確認テストやミニレポート、授業態度による評価。

教科書等

● 教科書等

尾野明美・小湊真衣・奥田訓子 編『特別支援教育・保育概論』萌文書林 ¥2,000 + 税

● 参考書

アクティブラーニングへの取り組み

PBL(課題解決型学習)	◎	反転授業	ディスカッション、ディベート	◎	グループワーク
学生によるプレゼンテーション		実習、フィールドワーク	◎	双方向アンケート	その他:

オフィスアワー

月・木・金の昼休みと放課後

実務経験

小学校現場において、特別支援教育コーディネーター及び通級指導教室担当者として、教育的なニーズのある児童への支援を行った。

教育課程論

坂本 渉

MB1L

単位	講・2	回数	15
年次 学期	1年・秋冬		[幼必] [保必]
学修準備時間			60

学位授与の方針(ディプロマ・ポリシー)

- 1.情熱・使命感・責任感 ○ 2.知識・技術 3.探究・主体性 ◎ 4.人権・共感

授業内容

● 目的と概要

幼稚園・保育所等における「教育課程」「全体的な計画」の編成の基本的な考え方を理解し、その必要性和重要性を認識する。また、「教育課程」「全体的な計画」の編成および指導計画作成上の留意点や基本的知識を身につけるとともにカリキュラム・マネジメントと評価ならびに改善について理解することを目的とする。

● 到達目標

- 1) 「教育課程」「全体的な計画」の意義を理解し、説明できる。
- 2) 「教育課程」「全体的な計画」の編成方法や手順について説明できる。
- 3) カリキュラム・マネジメントの意義について説明できる。
- 4) 保育・教育の計画、実践、省察、評価の過程について理解、実践していく力を身につける。

履修のルール

予習・復習の方法「自主学习ガイド」

予習: 授業中に指示した内容について、教科書等を熟読しておくこと。

復習: 授業内容を復習し、まとめ整理しておく。その際には、授業で学んだことを自分で説明できることを意識して行うこと。

課題に対するフィードバックの方法

各回授業の冒頭に、前回授業の要点を再度説明する。また、必要に応じて個別に解説する。

授業計画

1. 保育における計画の意義と必要性
2. 長期指導計画と短期指導計画の考え方
3. 「教育課程」「全体的な計画」編成のための基本的事項と留意点
4. 幼稚園教育要領と「教育課程」「全体的な計画」の編成方法
5. 保育所保育指針と「全体的な計画」の編成方法
6. 幼保連携型認定こども園教育・保育要領と「全体的な計画」の編成方法
7. 保育における食育計画と保健計画
8. 保育における行事の意味と指導計画への位置づけ
9. 小学校との連携
10. 「全体的な計画」から「指導計画」へ
11. 指導計画作成のための基本的事項と留意点
12. 0歳児の発達と生活を踏まえた指導計画作成と展開
13. 1～2歳児の発達と生活を踏まえた指導計画作成と展開
14. 3～5歳児の発達と生活を踏まえた指導計画作成と展開
15. カリキュラム・マネジメントと保育の評価

評価基準・評価方法

	割合 (100%)	基準・方法
試験	70	筆記試験を行う。
レポート	0	
その他	30	授業への参加状況、ミニレポート、受講態度による評価

教科書等

● 教科書等

田中亨胤・三宅茂夫 編『シリーズ知のゆりかご 教育・保育カリキュラム論』(株)みらい ¥2,420 (税込)

内角府・文部科学省・厚生労働省『幼稚園教育要領 保育所保育指針 幼保連携型認定こども園教育・保育要領』チャイルド本社 ¥550 (税込)

● 参考書

授業中に適宜紹介する。

アクティブラーニングへの取り組み

PBL(課題解決型学習)	反転授業	ディスカッション、ディベート	◎ グループワーク
学生によるプレゼンテーション	実習、フィールドワーク	双方向アンケート	その他:

オフィスアワー

火・水・木・金の昼休み

実務経験

幼稚園教諭、主任教諭、また、保育所保育士として勤務。この経験をもとに保育の基本を指導する。

教育実習 I

板倉 史郎、本田 和隆 ほか

MB2T

単位	実・2	回数	
年次 学期	1年・秋		[幼必]
学修準備時間			

学位授与の方針(ディプロマ・ポリシー)

1.情熱・使命感・責任感 ○ 2.知識・技術 ◎ 3.探究・主体性 □ 4.人権・共感

授業内容

● 目的と概要

- この実習は、幼稚園教諭2種免許を取得するための実習である。実習を通じて、幼稚園教諭として必要な知識と技術を身につけ、教員としての資質を向上させることを目的としている。この実習は基礎的な実習として位置付き、2回生で実施する教育実習Ⅱに繋がるものである。
- 教育実習Ⅰでは、幼稚園の教育活動に参加し、幼稚園教諭の業務と役割について実践的に学ぶ参加実習を中心に行う。また、そこでの実習指導者指導のもと、幼稚園教諭に必要な資質、技能を習得する。

● 到達目標

- 幼稚園の機能、社会的役割および幼稚園教諭の業務内容を理解する。
- 幼稚園教諭の姿から子どもとのかかわり方の実際を学ぶ
- 保育計画(保育指導案)の立案を学ぶ
- 幼稚園教諭として必要な資質および知識、技術を身につける
- 幼児教育に対する考え方を深める

履修のルール

- 保育実習指導Ⅰ(保育所)への事前指導の出席が4/5に満たない者については、本実習への参加を認めない。
- 春夏期において教育学、教職・保育者論を含む20単位以上の取得を実習参加の原則とする。

予習・復習の方法「自主学习ガイド」

実習に必要な手続きや書類は期限内に必ず実施、提出すること。

課題に対するフィードバックの方法

実習後に個人面談を行い、実習園の評価を開示したうえで、成果と課題について確認する。

授業計画

1. 実習ハンドブック参照
- 2.
- 3.
- 4.
- 5.
- 6.
- 7.
- 8.
- 9.
- 10.
- 11.
- 12.
- 13.
- 14.
- 15.

評価基準・評価方法

	割合(100%)	基準・方法
試験	0	
レポート	0	
その他	100	・実習評価(75%) ・実習記録の内容(25%)

教科書等

● 教科書等

- 小櫃智子ほか『幼稚園・保育所・認定こども園実習パーフェクトガイド』わかば社 ¥1,540(税込)
- 本学幼児教育科発行「実習ハンドブック」(幼保共通) ¥750

● 参考書

アクティブラーニングへの取り組み

PBL(課題解決型学習)	反転授業	ディスカッション、ディベート	グループワーク
学生によるプレゼンテーション	◎実習、フィールドワーク	双方向アンケート	その他:

オフィスアワー

特に設けないが、必要に応じて研究室を訪ねること。

実務経験

小学校において教育実践を行うとともに、実習生の指導にあたってきた。

教育実習指導

板倉 史郎、本田 和隆

MB1E

単位	演・1	回数	15
年次 学期	1年通・ (2年春夏)		[幼必]
学修準備時間			15

学位授与の方針(ディプロマ・ポリシー)			
1.情熱・使命感・責任感	2.知識・技術	◎ 3.探究・主体性	4.人権・共感

授業内容

● 目的と概要

本授業は、教育実習に参加するための事前・事後指導を行うことを目的とする。講義、演習で学んだ知識や技能を基礎にして、これらを総合的に関連づけ、子ども理解と豊かな実践力の基礎を養い、及び幼稚園の子どもを取り巻く環境を理解することを目的としている。幼稚園の現状の理解やそこで求められる保育者としての力量を高めるための講義、演習を行う。

● 到達目標

- ・幼稚園の教育活動を理解する
- ・幼稚園の制度的理解を深める
- ・幼稚園教諭として必要とされる保育の内容を学ぶ
- ・幼稚園教諭として求められる基礎的な知識・技能を学ぶ
- ・子どもの発達の基礎知識に基づき、保育計画(保育指導案)が作成できる
- ・実習記録が書けるようになる

履修のルール

- ・事前指導は4/5以上の出席が必須。欠席した場合は次回までに講義配付資料等を受け取りに行くこと(板倉研究室)
- ・実習手続きがされない、課題未提出の場合、実習を中止することがある
- ・全15回を2年間にわたって履修

予習・復習の方法「自主学习ガイド」

毎時、提示される課題等は必ず行うこと。

課題に対するフィードバックの方法

提出課題については評価を行い、必要に応じて修正、加筆することで改善を図らせる。

授業計画

1. オリエンテーション(教育実習とは)
2. 幼稚園の役割と機能、幼稚園教諭の職務の理解
3. 幼稚園の一日の流れ
4. 保育技術の習得
5. 教育実習の目標と課題(カード作成)
6. 実習記録の構成
7. 実習記録の記述方法
8. 教育実習Ⅰ事前指導①～始めての実習に参加すること～
9. 教育実習Ⅰ事前指導②～実習での自己課題の確認～
10. 実習振り返りによる自己課題の明確化①
11. 実習記録の改善点～教育実習Ⅱに向けて～
12. 教育実習の目標と課題(カード作成)
13. 教育実習Ⅱ事前指導①～本実習の理解～
14. 教育実習Ⅱ事前指導②～自己課題の確認～
15. 実習振り返りによる自己課題の明確化②まとめ

評価基準・評価方法

	割合(100%)	基準・方法
試験	0	
レポート	0	
その他	100	・授業に取り組む姿勢(受講態度)(30%) ・授業における参加状況(15%) ・実習課題提出、到達状況(35%) ・実習後の振り返り、まとめ、報告(20%)

教科書等

● 教科書等

- ・小櫃智子ほか『幼稚園・保育所・認定こども園実習パーフェクトガイド』わかば社 ¥1,400 + 税
- ・本学幼児教育科発行「実習ハンドブック」(幼保共通) ¥750

● 参考書

授業内で紹介する

アクティブラーニングへの取り組み

◎ PBL(課題解決型学習)	反転授業	◎ ディスカッション、ディベート	◎ グループワーク
◎ 学生によるプレゼンテーション	◎ 実習、フィールドワーク	◎ 双方向アンケート	その他:

オフィスアワー

特に設けないが、必要に応じて研究室を訪ねること。

実務経験

小学校において教育実践を行うとともに、実習生の指導にあたってきた。

保育実習Ⅰ（保育所）

板倉 史郎、本田 和隆 ほか

MW2T

単位	実・2	回数	
年次 学期	1年・冬集		[保必]
学修準備時間			

学位授与の方針(ディプロマ・ポリシー)

○ 1.情熱・使命感・責任感	2.知識・技術	◎ 3.探究・主体性	4.人権・共感
----------------	---------	------------	---------

授業内容

● 目的と概要

本実習は、保育士資格を取得するための実習である。実習を通じて保育士として必要な知識と技術を見につけ、その資質を向上させることを目的としている。

保育実習Ⅰ（保育所）では、保育士としての保育活動に参加し、実習指導者の指導のもと、保育士の業務と役割について実践的に学ぶ。また、活動に関わる計画、子どもや利用者の発達に応じた関わり方を学ぶ。

● 到達目標

- ・保育所の機能、社会的役割および保育士の業務について理解する
- ・保育士の姿から利用者との関わり方の実際を学ぶ
- ・保育計画の立案を学ぶ
- ・保育士として必要な資質および知識・技術を身につける
- ・保育に対する考え方を深める

履修のルール

- ・保育実習指導Ⅰ（保育所）への事前指導の出席が4/5に満たない者については、本実習への参加を認めない。
- ・実習までに保育原理、乳児保育Ⅰを含む35単位以上の取得を参加の原則とする。

予習・復習の方法「自主学习ガイド」

実習に必要な手続きや書類は期限内に必ず実施、提出すること。

課題に対するフィードバックの方法

実習後に個人面談を行い、実習園の評価を開示したうえで、成果と課題について確認する。

授業計画

1. 実習ハンドブック 参照
- 2.
- 3.
- 4.
- 5.
- 6.
- 7.
- 8.
- 9.
- 10.
- 11.
- 12.
- 13.
- 14.
- 15.

評価基準・評価方法

	割合 (100%)	基準・方法
試験	0	
レポート	0	
その他	100	・実習評価 (75%) ・実習記録の内容 (25%)

教科書等

● 教科書等

- ・小櫃智子ほか『幼稚園・保育所・認定こども園実習 パーフェクトガイド』わかば社 ¥1,540 (税込)
- ・本学幼児教育科発行「実習ハンドブック」(幼保共通) ¥750

● 参考書

アクティブラーニングへの取り組み

PBL(課題解決型学習)	反転授業	ディスカッション、ディベート	グループワーク
学生によるプレゼンテーション	◎実習、フィールドワーク	双方向アンケート	その他:

オフィスアワー

特に設けないが、必要に応じて研究室を訪ねること。

実務経験

小学校において教育実践を行うとともに、実習生の指導にあたってきた。

保育実習指導 I (保育所)

板倉 史郎、本田 和隆

MW1E

単位	演・1	回数	15
年次 学期	1年・通		[保必]
学修準備時間			15

学位授与の方針(ディプロマ・ポリシー)			
○ 1.情熱・使命感・責任感	2.知識・技術	◎ 3.探究・主体性	4.人権・共感

授業内容

● 目的と概要

本授業は、保育実習 I (保育所) の参加するための事前・事後指導を行うことを目的とする。講義、演習で学んだ知識や技能を基礎にして、これらを総合的に関連づけ、子ども理解と豊かな実践力の基礎を養うこと、及び保育所の子どもを取り巻く環境を理解することを目的としている。保育所の現状の理解やそこで求められる保育者としての力量を高めるための講義、演習を行う。

● 到達目標

- ・実習の目的を理解し、実習課題を明確にする
- ・保育所の制度的理解を深める
- ・保育所を利用する子どもと家族の生活を理解し、必要とされる保育・子育て支援の概要を学ぶ
- ・保育士として求められる基礎的な知識、技能の活用方法を学ぶ
- ・子どもの発達の基礎知識に基づき、保育計画(保育指導案)が作成できる
- ・実習記録が書ける

履修のルール

- ・事前指導は 4/5 以上の出席が必須。欠席した場合は次回までに講義配付資料等を受け取りに行くこと(板倉研究室)
- ・実習手続きがされない、課題未提出の場合、実習を中止することがある

予習・復習の方法「自主学习ガイド」

毎時、提示される課題等は必ず行うこと。

課題に対するフィードバックの方法

提出課題については評価を行い、必要に応じて修正、加筆することで改善を図らせる。

授業計画

1. オリエンテーション(保育実習とは)
2. 実習目的を基にした実習生カードの指導、記入
3. 実習目的に基づく自己課題の明確化
4. ソーシャルスキルに関わる演習
5. 実習記録の書き方①目的とねらい
6. 実習記録の書き方②子どもの動きと保育者の動き
7. 保育計画指導案の立て方①ねらいをもった指導案
8. 保育計画指導案の立て方②つけさせたい力
9. 実習先の制度的理解
10. 保育士に必要とされる専門性
11. 実習に関わる演習①一手遊び
12. 実習に関わる演習②絵本の読み聞かせ
13. 実習直前指導
14. 実習の振り返りによる自己課題の明確化
15. 実習報告会

評価基準・評価方法

	割合(100%)	基準・方法
試験	0	
レポート	0	
その他	100	・授業に取り組む姿勢(受講態度)(30%) ・授業における参加状況(15%) ・実習課題提出、到達状況(35%) ・実習後の振り返り、まとめ、報告(20%)

教科書等

● 教科書等

- ・小櫃智子ほか『幼稚園・保育所・認定こども園実習パーフェクトガイド』わかば社 ¥1,540(税込)
- ・本学幼児教育科発行「実習ハンドブック」(幼保共通) ¥750

● 参考書

アクティブラーニングへの取り組み

◎ PBL(課題解決型学習)	反転授業	◎ ディスカッション、ディベート	◎ グループワーク
◎ 学生によるプレゼンテーション	◎ 実習、フィールドワーク	◎ 双方向アンケート	その他:

オフィスアワー

特に設けないが、必要に応じて研究室を訪ねること。

実務経験

小学校において教育実践を行うとともに、実習生の指導にあたってきた。

保育実習指導 I (福祉施設)

板倉 史郎、本田 和隆

MW1E

単位	演・1	回数	15
年次 学期	1年秋冬・ (2年春)		[保必]
学修準備時間			15

学位授与の方針(ディプロマ・ポリシー)			
○ 1.情熱・使命感・責任感	2.知識・技術	◎ 3.探究・主体性	4.人権・共感

授業内容

● 目的と概要

本授業は、保育実習 I (福祉施設) の参加するための事前・事後指導を行うことを目的とする。

講義、演習で学んだ知識や技能を基礎にして、これらを総合的に関連づけ、子ども理解と豊かな実践力の基礎を養うこと、及び福祉施設を取り巻く環境を理解することを目的としている。福祉施設の現状の理解やそこで求められる保育者としての力量を高めるための講義、演習を行う。

● 到達目標

- ・実習の目的を理解し、実習課題を明確にする
- ・福祉施設の制度的理解を深める
- ・福祉施設を利用する利用者と家族の生活を理解し、必要とされる支援の概要を学ぶ
- ・保育士として求められる基礎的な知識、技能の活用方法を学ぶ
- ・利用者の発達の基礎知識に基づき、レクリエーション案が作成できる
- ・実習記録が書ける

履修のルール

- ・事前指導は 4/5 以上の出席が必須。欠席した場合は次回までに講義配付資料等を受け取りに行くこと (板倉研究室)
- ・実習手続きがされない、課題未提出の場合、実習を中止することがある

予習・復習の方法「自主学习ガイド」

毎時、提示される課題等は必ず行うこと。

課題に対するフィードバックの方法

提出課題については評価を行い、必要に応じて修正、加筆することで改善を図らせる。

授業計画

1. オリエンテーション (福祉施設実習とは)
2. 福祉施設実習の必要性
3. 実習目的を基にした実習生カードの指導、記入
4. 実習目的に基づく自己課題の明確化
5. ソーシャルスキルに関わる演習
6. 福祉施設実習記録の書き方①
7. 福祉施設実習記録の書き方②
8. 保育計画指導案の立て方①
9. 実習先の制度的理解
10. 福祉施設での保育士に必要とされる専門性
11. 実習に関わる演習①
12. 実習に関わる演習②
13. 実習直前指導
14. 実習の振り返りによる自己課題の明確化
15. 実習報告会

評価基準・評価方法

	割合 (100%)	基準・方法
試験	0	
レポート	0	
その他	100	・授業に取り組む姿勢 (受講態度) (30%) ・授業における参加状況 (15%) ・実習課題提出、到達状況 (35%) ・実習後の振り返り、まとめ、報告 (20%)

教科書等

● 教科書等

- ・小櫃智子ほか『幼稚園・保育所・認定こども園実習 パーフェクトガイド』わかば社 ¥1,400 + 税
- ・本学幼児教育科発行「実習ハンドブック」(幼保共通) ¥750

● 参考書

アクティブラーニングへの取り組み

◎ PBL(課題解決型学習)	反転授業	◎ ディスカッション、ディベート	◎ グループワーク
◎ 学生によるプレゼンテーション	◎ 実習、フィールドワーク	◎ 双方向アンケート	その他:

オフィスアワー

特に設けないが、必要に応じて研究室を訪ねること。

実務経験

小学校において教育実践を行うとともに、実習生の指導にあたってきた。

ゼミナール I

板倉 史郎

MS1E

単位	演・2	回数	30
年次 学期	1年・通		[保必]
学修準備時間			30

学位授与の方針(ディプロマ・ポリシー)			
○ 1.情熱・使命感・責任感	○ 2.知識・技術	◎ 3.探究・主体性	○ 4.人権・共感

授業内容

● 目的と概要

- ・大学での学び方（ノートの取り方、講義の受け方、レポートの書き方、事前学習への取り組み方法など）を、全ゼミ同様に学んでいく。
- ・保育者に必要な資質、能力について考える。
- ・保育を巡る情勢について学ぶ。

● 到達目標

- ・大学でのゼミナールの役割が理解できる。
- ・ゼミナールでの研究方法について理解できる。
- ・研究の手順が理解できる。
- ・自分がめざす保育者像を持つことができる。
- ・保育や子どもを巡って、どのようなことが起り、問題になっているかについて学ぶことで関心を深める。

履修のルール

- ・課題については、当日までにやり遂げる
- ・自分の意見や考えをもって、ゼミに参加する。

予習・復習の方法「自主学习ガイド」

- ・その都度、直接指導、連絡する。
- ・子どもや保育に関するニュース等に関心を持ち、自分なりに理解できるように取り組む。

課題に対するフィードバックの方法

面談で知らせる。

授業計画

- | | |
|--|---|
| <ol style="list-style-type: none"> 1. (プレゼミ) 大学での履修とは。大学での講義の受け方
～ノートを取るには～ 2. 目指す夢は同じ
～大学での夢を語り合う(各プレゼミごとの自己紹介を通して)～ 3. 入学前課題の確認①
保育者に必要な国語、数学力を理解する 4. 入学前課題の確認②
幼児教育には欠かせない「絵本」を通して 5. 入学前課題の確認③
「保育者のイメージ」「保育者に必要な漢字」を通して
～保育者にとって必要な力とは～ 6. 入学前課題の確認④
自分の周辺にある「幼児教育施設」を理解する
～実習に関連して～ 7. 大学でのレポートと論文の違い～実際に経験することから～ 8. 大学での学びの方法～アクティブラーニング～ 9. マナー講座を通して①～社会人として必要な力を探る～ 10. マナー講座を通して②～実演を伴った各自の課題を知る～ 11. マナー講座を通して③～①②で経験したことをレポートにまとめる～ 12. グループワークによるプレゼンテーション力の向上 13. グループワークを通して仕上げたチーム別発表、自己評価 14. 専門ゼミを知る(2回生の研究テーマを聞く) 15. 専門ゼミを選択する(各自で見学、体験し、決定する) | <ol style="list-style-type: none"> 16. ゼミでの取組紹介と意見交換 17. 保育、子どもに関する関心事項について交流と
それに対する意見 18. 関心事項の発表と意見交流 1 児童虐待 19. 関心事項の発表と意見交流 2 子どもの貧困 20. 関心事項の発表と意見交流 3 単親世帯 21. 日本の保育制度について 1 幼児教育制度 22. 日本の保育制度について 2 保育制度 23. 初めての保育実習に向けて 24. 保育実習を終えて 25. 世界の保育制度について 1 欧米諸国 26. 世界の保育制度について 2 アジア諸国 27. 保育者の置かれている現状について 1 労働時間を中心に 28. 保育者の置かれている現状について 2 待遇を中心に 29. 保育者と保護者との関係について 30. 1年のまとめと2回生への課題、抱負 |
|--|---|

評価基準・評価方法

	割合(100%)	基準・方法
試験	0	
レポート	0	
その他	100	・課題に対する取組、提出課題、発表等を総合的に評価する。

教科書等

- 教科書等
なし

● 参考書

ゼミの時間に随時紹介する。

アクティブラーニングへの取り組み

◎ PBL(課題解決型学習)	反転授業	◎ ディスカッション、ディベート	◎ グループワーク
◎ 学生によるプレゼンテーション	実習、フィールドワーク	双方向アンケート	その他:

オフィスアワー

- ・特に設けないが、随時受け付ける。

実務経験

小学校において教育実践を行うとともに、実習生の指導にあたってきた。

ゼミナール I

大浦 知加

MS1E

単位	演・2	回数	30
年次 学期	1年・通		[保必]
学修準備時間			30

学位授与の方針(ディプロマ・ポリシー)

○ 1.情熱・使命感・責任感	○ 2.知識・技術	◎ 3.探究・主体性	○ 4.人権・共感
----------------	-----------	------------	-----------

授業内容

● 目的と概要

【前期】 保育者を目指す学生に、大学での専門的な学び、技術の習得など養成校での学習全般を理解し、同時に大学生活へのスムーズな入り口として、教員によるプレゼミ担当となり、指導する。

【後期】 本ゼミは、それぞれの得意を活かした表現活動を創り上げて共有する、コラボレーションしていく過程を学ぶ。音楽を通した様々な表現方法のあそびを共有することで、人的環境となる保育者像を理解していく。

● 到達目標

【前期】 1) 大学での授業方法、受講に際する姿勢を理解できる。

2) 大学での授業の受講をし、定められた課題に対応できる。

【後期】 1) 自らを子どもたちの人的環境と認識して動くことができる。

2) 集団活動の中で、他者を受容し、自らの得意を認識し、協働しながら高め合うことができる。

3) 音楽を通した様々な表現活動の喜びを、他者と共有することができる。

履修のルール

- ・主体的に動く
- ・公平な視点で周りを見渡す
- ・対話的にコラボレーションする

予習・復習の方法「自主学习ガイド」

- ・他者の立場に立ってものごとを考える。
- ・周りの環境をよく観察する。
- ・表現舞台、テレビ・ネット等での表現方法について考察する。

課題に対するフィードバックの方法

授業内にフィードバックを行う。

授業計画

1. (プレゼミ) 大学での履修とは。大学での講義の受け方 ～ノートを取るには～	16. 専門ゼミ「音楽を通した表現コミュニケーション」について学ぶ(人的環境としての表現者とは)
2. 目指す夢は同じ ～大学での夢を語り合う(各プレゼミごとの自己紹介を通して)～	17. ゼミで表現したいことを発表 (役割り分担、内容について話し合う)
3. 入学前課題の確認① 保育者が必要な国語、数学力を理解する	18. 音楽療法・音楽あそびの体験をする
4. 入学前課題の確認② 幼児教育には欠かせない「絵本」を通して	19. 2回生と実習について意見交換会
5. 入学前課題の確認③ 「保育者のイメージ」[保育者に必要な漢字]を通して ～保育者にとって必要な力とは～	20. 音楽療法・音楽あそびを保育現場で行う方法を話し合う
6. 入学前課題の確認④ 自分の周辺にある「幼児教育施設」を理解する～実習に関連して～	21. 音楽療法・音楽あそびを保育現場で行う方法のロールプレイ
7. 大学でのレポートと論文の違い～実際に経験することから～	22. 和太鼓演奏の体験をする
8. 大学での学びの方法～アクティブラーニング～	23. 和太鼓を保育現場で行う方法を話し合う
9. マナー講座を通して①～社会人として必要な力を探る～	24. 和太鼓を保育現場で行う方法のロールプレイ
10. マナー講座を通して②～実演を伴った各自の課題を知る～	25. 研究課題について検討①(表現するというを考える)
11. マナー講座を通して③～①②で経験したことをレポートにまとめる～	26. 研究課題について検討②(集団活動、発表方法について考える)
12. グループワークによるプレゼンテーション力の向上	27. 研究課題について創作・練習①(リズム・ダンスについて)
13. グループワークを通して仕上げたチーム別発表、自己評価	28. 研究課題について創作・練習②(演じる演奏を考える)
14. 専門ゼミを知る(2回生の研究テーマを聞く)	29. 研究課題について創作・練習③(息を合わせる演奏を行う)
15. 専門ゼミを選択する(各自で見学、体験し、決定する)	30. 成果の発表と振り返り

音楽療法訪問で郊外ゼミ予定

評価基準・評価方法

	割合(100%)	基準・方法
試験	0	
レポート	0	
その他	100	授業の取り組み、意欲、姿勢、発表を総合評価する。

教科書等

● 教科書等

● 参考書

授業内で紹介する。

アクティブラーニングへの取り組み

◎ PBL(課題解決型学習)	◎ 反転授業	◎ ディスカッション、ディベート	◎ グループワーク
◎ 学生によるプレゼンテーション	◎ 実習、フィールドワーク	◎ 双方向アンケート	◎ その他:

オフィスアワー

お昼休み等(研究室)

実務経験

こども園・保育園へのリトミック、生活発表会指導者として勤務。音楽教室・幼児教室では合奏やオペレッタの舞台発表指導。長年、和楽器・管弦打楽器こどもオーケストラ、舞台発表等のイベントを主催、指導。自身も和太鼓やピアノによる舞台表現家であり、音楽療法訪問も行っている。

ゼミナール I

坂本 渉

MS1E

単位	演・2	回数	30
年次 学期	1年・通		[保必]
学修準備時間			30

学位授与の方針(ディプロマ・ポリシー)			
<input type="radio"/> 1.情熱・使命感・責任感	<input type="radio"/> 2.知識・技術	<input checked="" type="radio"/> 3.探究・主体性	<input type="radio"/> 4.人権・共感

授業内容

● 目的と概要

大学での学び方(ノートの取り方、講義の受け方、レポートの書き方、事前学習への取り組み方法など)を、全ゼミ同様に学んでいく。その後、各ゼミに分かれて、その専門分野に応じた学びを展開していく。大学でのゼミナールでの研究方法についても学んでいく。

● 到達目標

- ・大学でのゼミナールの役割が理解できる。
- ・ゼミナールでの研究方法について理解できる。
- ・研究の手順が理解できる。
- ・「遊び」の意義について理解できる。
- ・さまざまな「遊び」に参加できる。

履修のルール

演習授業に積極的に参加すること。

予習・復習の方法「自主学习ガイド」

予習: 課題に必要な文献検索や素材・用具の準備を行う。

復習: 授業内容を振り返り、整理し理解を深める。

課題に対するフィードバックの方法

授業内で解説する。また、実践の振り返りについてはグループ討議を行う。

授業計画

- | | |
|---|---|
| <ol style="list-style-type: none"> (プレゼミ) 大学での履修とは。大学での講義の受け方
～ノートを取るには～ 目指す夢は同じ
～大学での夢を語り合う(各プレゼミごとの自己紹介を通して)～ 入学前課題の確認①
保育者が必要な国語、数学力を理解する 入学前課題の確認②
幼児教育には欠かせない「絵本」を通して 入学前課題の確認③
「保育者のイメージ」「保育者に必要な漢字」を通して～保育者にとって必要な力とは～ 入学前課題の確認④
自分の周辺にある「幼児教育施設」を理解する～実習に関連して～ 大学でのレポートと論文の違い～実際に経験することから～ 大学での学びの方法～アクティブラーニング～ マナー講座を通して①～社会人として必要な力を探る～ マナー講座を通して②～実演を伴った各自の課題を知る～ マナー講座を通して③～①②で経験したことをレポートにまとめる～ グループワークによるプレゼンテーション力の向上 グループワークを通して仕上げたチーム別発表、自己評価 専門ゼミを知る(2回生の研究テーマを聞く) 専門ゼミを選択する(各自で見学、体験し、決定する) | <ol style="list-style-type: none"> オリエンテーション:ゼミ概要説明 進路面談(1) / 自己紹介カードの記入 進路面談(2) / 身近な環境についての理解 遊びの検討① 0～2歳児の遊びについて 遊びの検討② 3～5歳児の遊びについて 遊びの検討③ 自然環境と遊び 遊びの検討④ 伝承遊び 遊びの検討⑤ ゲーム遊び 遊びの検討⑥ 制作遊び クリスマス制作 模擬保育実践参加(1) —1回生の指導案をもとに— 模擬保育実践参加(2) —2回生の指導案をもとに— ちよたんルームの壁面制作(1) 季節感のある保育環境 ちよたんルームの壁面制作(2) お誕生日表づくり ゼミナール発表会 |
|---|---|

評価基準・評価方法

	割合(100%)	基準・方法
試験	0	
レポート	0	
その他	100	授業への参加状況、受講態度による評価(70) 課題への取り組みやミニレポートの提出状況(30)

教科書等

● 教科書等

● 参考書

授業中に適宜紹介する。

アクティブラーニングへの取り組み

<input type="checkbox"/> PBL(課題解決型学習)	<input type="checkbox"/> 反転授業	<input type="checkbox"/> ディスカッション、ディベート	<input checked="" type="checkbox"/> グループワーク
<input checked="" type="checkbox"/> 学生によるプレゼンテーション	<input checked="" type="checkbox"/> 実習、フィールドワーク	<input type="checkbox"/> 双方向アンケート	<input type="checkbox"/> その他:

オフィスアワー

火・水・木・金の昼休み

実務経験

幼稚園教諭、主任教諭、また、保育所保育士として勤務。

ゼミナール I

東 景子

MS1E

単位	演・2	回数	30
年次 学期	1年・通		[保必]
学修準備時間			30

学位授与の方針(ディプロマ・ポリシー)

○ 1.情熱・使命感・責任感	○ 2.知識・技術	◎ 3.探究・主体性	○ 4.人権・共感
----------------	-----------	------------	-----------

授業内容

● 目的と概要

- ・大学での学び方(ノートの取り方、講義の受け方、レポートの書き方、事前学習への取り組み方法など)を、全ゼミ同様に学んでいく。その後、各ゼミに分かれて、その専門分野に応じた学びを展開していく。大学でのゼミナールでの研究方法についても学んでいく。
- ・乳幼児が園生活を楽しめる様な簡単な人形や絵本制作を実施し、学生自身が創作活動を楽しみ、創意工夫する力を身に付ける事を目的とする。

● 到達目標

- ・大学のゼミナールの役割が理解できる。
- ・研究の手順が理解できる。
- ・絵本を楽しむ対象年齢を想像しながら制作する事が出来る。
- ・ゼミナールでの研究方法について理解できる。
- ・表現したい対象やテーマを考え、簡単な人形と絵本制作ができる。

履修のルール

特に絵の具画材を使用する回では、多少汚れても構わない服装かエプロン等を持参の上受講する事。

予習・復習の方法「自主学习ガイド」

予習: 事前に提示された課題について、創作のヒントとなる童謡や絵本、おはなしなどの参考資料を図書館やインターネットで調べて収集する。

復習: 提供した資料を整理しながら、次回に向けて質問事項をまとめる。

課題に対するフィードバックの方法

ゼミの話し合いの中で、毎回対面で指導を行う。

授業計画

- | | |
|---|---|
| <ol style="list-style-type: none"> 1. (プレゼミ) 大学での履修とは。大学での講義の受け方～ノートを取るには～ 2. 目指す夢は同じ～大学での夢を語り合う(各プレゼミごとの自己紹介を通して)～ 3. 入学前課題の確認①保育者に必要な国語、数学力を理解する 4. 入学前課題の確認② 幼児教育には欠かせない「絵本」を通して 5. 入学前課題の確認③「保育者のイメージ」「保育者に必要な漢字」を通して～保育者にとって必要な力とは～ 6. 入学前課題の確認④自分の周辺にある「幼児教育施設」を理解する～実習に関連して～ 7. 大学でのレポートと論文の違い～実際に経験することから～ 8. 大学での学びの方法～アクティブラーニング～ 9. マナー講座を通して①～社会人として必要な力を探る～ 10. マナー講座を通して②～実演を伴った各自の課題を知る～ 11. マナー講座を通して③～①②で経験したことをレポートにまとめる～ 12. グループワークによるプレゼンテーション力の向上 13. グループワークを通して仕上げたチーム別発表、自己評価 14. 専門ゼミを知る(2回生の研究テーマを聞く) 15. 専門ゼミを選択する(各自で見学、体験し、決定する) | <ol style="list-style-type: none"> 16. 専門ゼミ 簡単な人形作りで自己紹介～課題とテーマについて～ 17. 童謡の紹介 登場人物の人形制作① 18. おはなしの紹介 登場人物の人形制作② 19. 完成作品交流 20. 絵本の紹介 作りたい絵本のイメージを考える 21. 絵本の構想 参考資料を基に絵本の内容を考える 22. 意見交流とグループ制作 ページ分担と複製① 23. 意見交流とグループ制作 ページ分担と複製② 24. 意見交流とグループ制作 ページ分担と複製③ 25. 表紙作り 下絵を考える～試し① 26. 表紙作り 下絵制作② 27. 表紙作り 下絵制作～仕上げ③ 28. 製本作り グループで発表準備 29. 製本完成 グループで発表準備 30. ゼミ発表会 |
|---|---|

評価基準・評価方法

	割合(100%)	基準・方法
試験	0	
レポート	0	
その他	100	準備物、授業への取り組み姿勢、課題の作品や発表内容を総合的に評価する。

教科書等

● 教科書等

必要に応じてプリント資料を配布する。
購入の画材一式

● 参考書

アクティブラーニングへの取り組み

◎ PBL(課題解決型学習)	反転授業	ディスカッション、ディベート	◎ グループワーク
◎ 学生によるプレゼンテーション	◎ 実習、フィールドワーク	双方向アンケート	その他:

オフィスアワー

月火水金の昼休み、研究室

実務経験

小中学校の図画工作・美術と併設の特別支援学級の美術(非常勤講師・常勤講師)、社会人向けの生涯学習(木版画教室)講師

ゼミナール I

寄 ゆかり

MS1E

単位	演・2	回数	30
年次 学期	1年・通		[保必]
学修準備時間			30

学位授与の方針(ディプロマ・ポリシー)

○ 1.情熱・使命感・責任感	○ 2.知識・技術	○ 3.探究・主体性	○ 4.人権・共感
----------------	-----------	------------	-----------

授業内容

● 目的と概要

【前期】 保育者を目指す学生に、大学での専門的な学び、技術の習得など養成校での学習全般を理解し、同時に大学生活へのスムーズな入り口として、教員によるプレゼミ担当となり、指導する。

【後期】 本ゼミは、「音楽表現 アンサンブル」ゼミとして音楽表現の様々なあり方を考える。音楽=ピアノだけではない。1回生では、まず「自分が音楽を聴いてほっとする。」「歌うと元気が出る」とはどういうことか。実際に自身が体験することから始め、追求していく。

● 到達目標

【前期】 1) 大学での授業方法、受講に際する姿勢を理解できる。

2) 大学での授業の受講をし、定められた課題に対応できる。

【後期】 1) 提示された課題曲演奏(歌、合奏など)に、積極的に取り組める。

2) 演奏の幅を広げる(楽器の種類、音域、ジャンルなど)努力ができる。

3) 様々な音楽表現を追求することにより、幼児教育の場での音楽表現の方法を考えることができる。

履修のルール

音楽表現は技術力で「上手」「下手」と判断するのではない。取り組む姿勢と、「人に伝わる演奏をするためにはどうしたらよいか」を考えていく姿勢があることが重要である。

予習・復習の方法「自主学习ガイド」

事前に提示された課題については、必ず予習(曲の場合は練習)しておくこと。予習の方法は示しているが、わからない場合は放置せず、質問しながら到達できるようにしておく。

課題に対するフィードバックの方法

各自の課題については、できるだけ対面で個別に指導を行う。

授業計画

1. (プレゼミ) 大学での履修とは。大学での講義の受け方 ～ノートを取るには～	16. 専門ゼミ「音楽表現 アンサンブル」とは。ゼミでの夢を語り合う
2. 目指す夢は同じ ～大学での夢を語り合う(各プレゼミごとの自己紹介を通して)～	17. 歌唱から感じること①～選曲するために～
3. 入学前課題の確認①	18. 歌唱から感じること②～曲を歌ってみる。そこから感じること～
4. 入学前課題の確認② 幼児教育には欠かせない「絵本」を通して	19. 歌唱から感じること③～人に響く演奏をするには～
5. 入学前課題の確認③ 「保育者のイメージ」「保育者に必要な漢字」を通して～保育者にとって必要な力とは～	20. 歌唱から感じること④～演奏して、気づいたこと～
6. 入学前課題の確認④ 自分の周辺にある「幼児教育施設」を理解する～実習に関連して～	21. 歌唱から感じること⑤～気づいたことを、どう反映するか～
7. 大学でのレポートと論文の違い～実際に経験することから～	22. 文献研究と歌唱、合奏①～幼児曲をもとに～
8. 大学での学びの方法～アクティブラーニング～	23. 文献研究と歌唱、合奏②～幼児曲での合奏～
9. マナー講座を通して①～社会人として必要な力を探る～	24. 文献研究と歌唱、合奏③～ポップスの体験～
10. マナー講座を通して②～実演を伴った各自の課題を知る～	25. 文献研究と歌唱、合奏④～ポップスのノリを深める～
11. マナー講座を通して③～①②で経験したことをレポートにまとめる～	26. 文献研究と歌唱、合奏⑤～自分たちで合奏できる曲の選曲～
12. グループワークによるプレゼンテーション力の向上	27. 文献研究と歌唱、合奏⑥～合奏のパートを検討する～
13. グループワークを通して仕上げたチーム別発表、自己評価	28. 文献研究と歌唱、合奏⑦～演奏する楽しさは～
14. 専門ゼミを知る(2回生の研究テーマを聞く)	29. 文献研究と歌唱、合奏⑧～演奏を極めるには～
15. 専門ゼミを選択する(各自で見学、体験し、決定する)	30. 2回生に向けて、各自の研究課題を整理する。

評価基準・評価方法

	割合(100%)	基準・方法
試験	0	
レポート	0	
その他	100	各授業での課題と課題追求に取り組む姿勢、課題の達成度、チームでの曲への取り組み協力度など総合的に判断する。

教科書等

● 教科書等

● 参考書

アクティブラーニングへの取り組み

○ PBL(課題解決型学習)	○ 反転授業	○ ディスカッション、ディベート	○ グループワーク
○ 学生によるプレゼンテーション	○ 実習、フィールドワーク	○ 双方向アンケート	その他:

オフィスアワー

(火)(水)(木)(金)の在室時

実務経験

音楽教室においては、3歳児からピアノ、エレクトーンまでの鍵盤指導及び管楽器、打楽器指導を中心としたアンサンブル教育も行う。また現役保育者に対する保育内容に関する実技講習などの研修を多く行っている。